

診断群分類点数表の見直しに係る検討課題等について

DPC 検討ワーキンググループ（MDC 毎作業班、コーディングテキスト見直し作業班）における見直し作業の開始に向けて、予め診断群分類点数表の見直しに係る基本方針等について整理を行う。

1. 国際疾病分類の改正に係る対応について

- ・ 現行の DPC/PDPS は ICD-10（2003 年度版）を元に運用されている。
- ・ 2013 年 1 月 WHO 勧告に基づき、平成 26 年度中に ICD-10（2013 年度版）が告示される見込みとなっており、DPC/PDPS における対応について検討が必要。

① ICD-10（2013 年版）の改正内容

⇒【D-2 参考①】を参照

② 国際疾病分類が活用される場面

- 死因統計
- 疾病統計
- 医療機関における診療録管理
- 地域がん登録
- DPC/PDPS 等

③ 課題・論点

- 下記の観点から、DPC 制度における対応についてどのように考えるか。

【2013 年版に変更する場合の課題等】

- A) ICD コーディングを行う者（医師、診療情報管理士等）への周知
- B) ICD 対応標準病名マスターの整備

【2003 年版を引き続き使用する場合に懸念されること】

- A) DPC/PDPS 以外で 2013 年版が使用されれば、現場では 2013 年版と 2003 年版の 2 種類の疾病分類によるコーディングが求められる可能性があること

2. 重症度を考慮した評価手法（CCP マトリックス）について

- ・ 診断群分類の精緻化に向けて、現在厚生労働科学研究班（伏見班）で研究が行われている新たな評価手法（CCP マトリックス）について、次回改定に向けてどのように対応するかについて検討が必要。

① CCP マトリックスが検討されている背景

- A) 医療機関毎のケースミックス（ばらつき）の補正は、これまで調整係数担ってきたと考えられるが、調整係数の廃止に向けて、診断群分類の精緻化によってケースミックスの違いを反映することが必要である。
- B) これまでのツリー図による体系では、変数を増加させると分岐が細分化して包括評価ができなく恐れがあり、新たな変数を導入することが難しくなり、重症度に応じた包括評価ができない場合があった。
- C) CCP マトリックスの手法を用いることにより、副傷病や重症度分類等の変数を導入することにより、重症度に応じてより診療実態に即した包括評価を行うことができると考えられる。

② 基本方針について（案）

- A) CCP マトリックスは、次回の診療報酬改定に向けて、これまでの重症度評価において課題があり特に症例数が多い診断群分類を対象として導入を検討する。
- B) 臨床的観点から違和感がないか等、臨床家の意見も踏まえつつ検討を行う。
- C) 次回改定で部分的導入を行った後、CCP マトリックス導入の影響や有用性等について検証を行いつつ、診断群分類点数表の作成にかかるその後の方針について検討する。

③ CCP マトリックスに関するこれまで研究成果等
【D-2 参考②】を参照。

3. 点数設定方式 D と短期滞在手術等基本料 3 のあり方について

- ・ 現在、点数設定方式 D（1 入院あたり包括支払いに近い点数設定）は、高額な薬剤や材料を使う診断群分類において適用されているが、診療の標準化が進んでいる診断群分類等、現行の他にも点数設定方式 D を適用すべき分類があるかについて、今後検討が必要である。
- ・ 平成 26 年改定で大幅に拡大された 1 入院あたりの包括支払いに近い「短期滞在手術等基本料 3」の対象となる手術・検査等が大幅に拡大され、「短期滞在手術等基本料 3」の算定は DPC 包括算定に優先して算定することとされたが、DPC/PDPS による包括支払いとの整合性について、今後検討が必要である。

① 今後の対応（案）

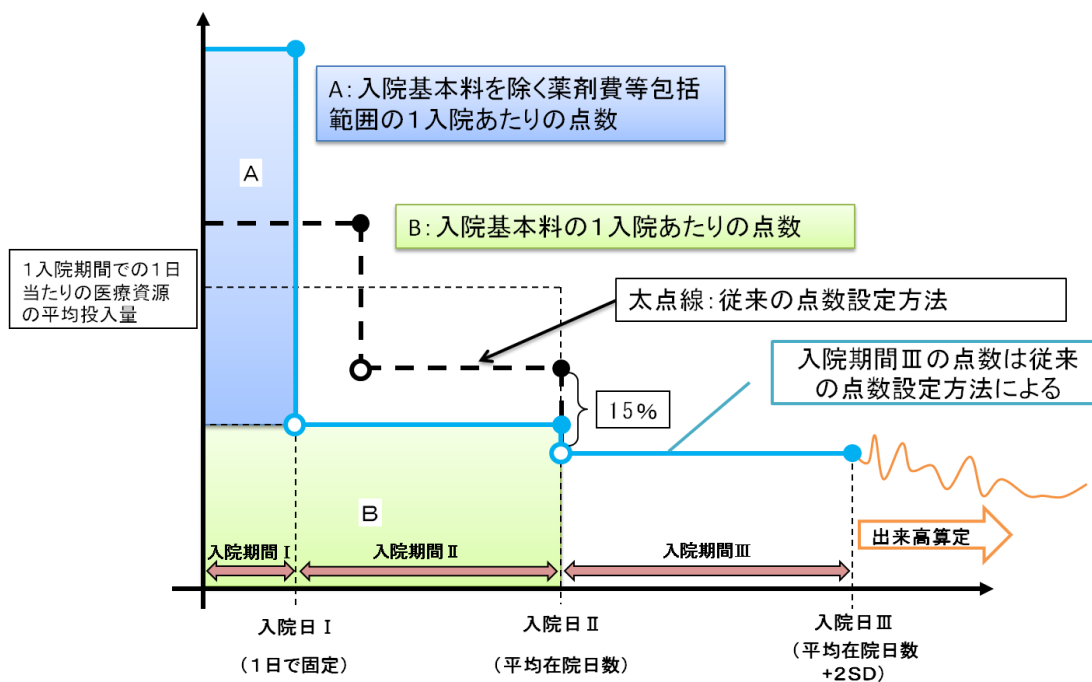
- A) 今後、平成 26 年改定後の退院患者調査の結果や、短期滞在手術等基本料 3 の見直しに関する中医協全体の議論等も踏まえつつ、DPC 評価分科会において下記

の観点から整理・検討を行い、必要に応じて中医協へ報告する。

- 短期滞在手術等基本料3・点数設定方式Dの対象とすべき手術・検査等
- DPC制度における短期滞在手術等基本料3を算定する患者データの取り扱い
 - ・ 退院患者調査の取りまとめ方法
 - ・ 機能評価係数Ⅱの計算方法（カバー率指数、複雑性指数等） 等

B) DPC 包括支払制度と短期滞在手術等基本料3との整合性を高めるため、今後、MDC 毎作業班において、必要に応じて短期滞在手術等基本料3とDPC14桁コードを1対1で対応させる観点等も含め診断群分類の見直しを行う。

[点数設定方式D]



[点数設定方式Dが適用された分類]

H26 診断群分類	診断群分類名称	処置2もしくは処置2定義名称
020200xx99x3xx	黄斑、後極変性	ペガプタニブナトリウム
020200xx99x4xx	黄斑、後極変性	ラニズマブ、アフリベルセプト
040040xx9907xx	肺の悪性腫瘍	ペメトレキセドナトリウム水和物
040040xx9908xx	肺の悪性腫瘍	ベバシズマブ
040050xx99x4xx	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	ペメトレキセドナトリウム水和物
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患	心臓カテーテル法による諸検査（一連の検査について）
060020xx99x40x	胃の悪性腫瘍	ドセタキセル水和物、パクリタキセル
060020xx99x5xx	胃の悪性腫瘍	トラスツズマブ
060030xx99x4xx	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	カルボプラチン+パクリタキセル等

060035xx99x30x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+イリノテカン
060035xx99x4xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+オキサリプラチンあり
060035xx99x50x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	レゴラフェニブ水和物、ベバシズマブ、セツキシマブ、パニツムマブ
060040xx99x40x	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+イリノテカン
060040xx99x5xx	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム+オキサリプラチンあり
060040xx99x60x	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	レゴラフェニブ水和物、ベバシズマブ、セツキシマブ、パニツムマブ
070470xx99x5xx	関節リウマチ	アバタセプト、トシリズマブ
070470xx99x6xx	関節リウマチ	インフリキシマブ
070470xx99x7xx	関節リウマチ	インフリキシマブ(強直性脊椎炎の場合)
080140xxxxx2xx	炎症性角化症	インフリキシマブ
090010xx99x40x	乳房の悪性腫瘍	ドセタキセル水和物、パクリタキセル等
090010xx99x6xx	乳房の悪性腫瘍	ペルツズマブ、トラスツズマブ
090010xx99x7xx	乳房の悪性腫瘍	パクリタキセル(アルブミン懸濁型)
100250xx99100x	下垂体機能低下症	下垂体前葉負荷試験
110200xx99xxxx	前立腺肥大症等	-
120010xx99x50x	卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍	カルボプラチン+パクリタキセル等
120010xx99x60x	卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍	ドキシソルビシン塩酸塩リポソーム製剤
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	化学療法ありかつ放射線療法なし
130030xx99x7xx	非ホジキンリンパ腫	イブリツモマブチウキセタン塩化イットリウム等

[短期滞在手術等基本料3の算定対象となる手術・検査等]

K008	腋臭症手術 2 皮膚有毛部切除術
K093-2	関節鏡下手根管開放手術
K196-2	胸腔鏡下交感神経節切除術(両側)
K282	水晶体再建術 1 眼内レンズを挿入する場合口その他のもの
K282	水晶体再建術 2 眼内レンズを挿入しない場合
K474	乳腺腫瘍摘出術 1 長径 5cm 未満
K617	下肢静脈瘤手術 1 抜去切除術
K617	下肢静脈瘤手術 2 硬化療法
K617	下肢静脈瘤手術 3 高位結紮術
K633	ヘルニア手術 5 兎径ヘルニア(15歳未満)
K633	ヘルニア手術 5 兎径ヘルニア(15歳以上)

K634	腹腔鏡下単径ヘルニア手術
K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 1 長径 2cm 未満
K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 2 長径 2cm 以上
K743	痔核手術 2 硬化療法(四段階注射法)
K867	子宮頸部(腔部)切除術
K873	子宮鏡下子宮筋腫摘出術
D237	終夜睡眠ポリグラフィー 1 携帯用装置を使用した場合
D237	終夜睡眠ポリグラフィー 2 多点感圧センサーを有する睡眠評価装置を使用した場合
D237	終夜睡眠ポリグラフィー 3 1 及び 2 以外の場合
D291-2	小児アレルギー負荷検査
D413	前立腺針生検法